

広運協

安全運転研修の参加料金を無料に

燃料請求システムの開発に着手



樋口理事長

広域運送事業協同組合(樋口恵一理事長)は19日、総会を開いた。2015年度は「組合員のコスト削減に貢献」を事業方針に掲げ、ETCカード手数料を1枚あたり700円(消費税込)に値下げするとともに、より多くの組合員が利用できるよう安全運転研修の参加料金を無料化。組合員の利便性向上のため燃料請求システムの開発に着手する。燃料コスト削減や安全面で効果の高いエコドライブの推進では、エコドライブ記録システムとエコドライブトラベルアプリの普及に努め、秋に「第2回エコドライブ推進キャンペーン」を開催する。

樋口理事長(川崎陸送)は人手不足をはじめトラック業界の課題に触れ、「頭を使って知恵を出し、組合の活動を通じて共同でできることに取り組む。『できない』という前にやれることをやっていきたい」と挨拶。川崎陸送の取り組みとして、「トラックを待たせない倉庫運営」をめざし、京都で実施しているトラック予約受付システムが待機時間削減に効果があることを報告。また、「ドライバーがストレッチフィルムを巻く」という発想を変え、倉庫側でストレッチフィルムを巻くことでトラックの滞留時間削減、回転率アップにつながっていることも紹介した。

事業、メディア事業を手掛けるユニークビジョン(本社・東京都渋谷区)の白土良之社長が「外から見たトラック業界と情報発信ももっと熱く会社を語ろう」をテーマに講演。

企業のTwitter/Facebookアカウントを一元管理できるソーシャルメディア統合管理ツール「Beluga(ベルーガ)」を活用し、「トラック」「トラックドライバー」等をキーワードでツイッター等でつぶやかれているケースを分

総会終了後の研修会ではまず、ウインローダ(本社・東京都杉並区)の高嶋民仁社長、同社東村山センターエコランド班長の牛尾徹也氏が「エコランドへ試行錯誤の海外展開」をテーマに講演した。



高嶋社長のウインローダの路線会社の地域の集配がメインだったウインローダでは、パブル崩壊後、家具、家電の配送時の引き取り

回収業務からリユース・リサイクルに着目。2001年にリサイクルリンクを創設し、04年にエコランドを立ち上げた。09年からは自らが荷主となってフリーピンに日本の中古品の輸出を開始し、中古家具の東南アジア向けの輸出では年間コンテナ500本クラスでトップシェアを誇る。月間コンテナ12〜13本を輸出しており、倉庫会社の在庫処理品などもコンテナに積み合わせし、積載率を向上させる取り組みを始めており、15年中に合弁会社を設立する準備を進めている。



白土社長のユニークビジョンのソーシャルメディアの活用コンサルティング、ブランドコミュニケーション構築、SaaS

析して紹介。情報過多になり自分に合った情報だけを選択することを無意識のうちに判断するようになり、「広告っぽい情報」が無視され、消費者に見てもらえる可能性が少なくなっていることを説明し、トラック業界の人材採用でソーシャルメディアの活用可能性を提案。採用に関するビジネスSNS「Wantedly」の例を紹介した。